



子どもたちが誇りをもてる
ふるさと創造 沼田町

講演1

「炭鉄港」による地域の物語の 発掘と広域連携

高野宏康

小樽商科大学

グローバル戦略推進センター地域経済研究部
学術研究員 博士(歴史民俗資料学)

講演2

産業遺産活用の取組み

～日本遺産「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道」を事例に～

和田幸司

朝来市 市長公室 総合政策課 副課長

パネルディスカッション

「炭鉄港」とクラウスの記憶を どう活かすのか

吉岡宏高

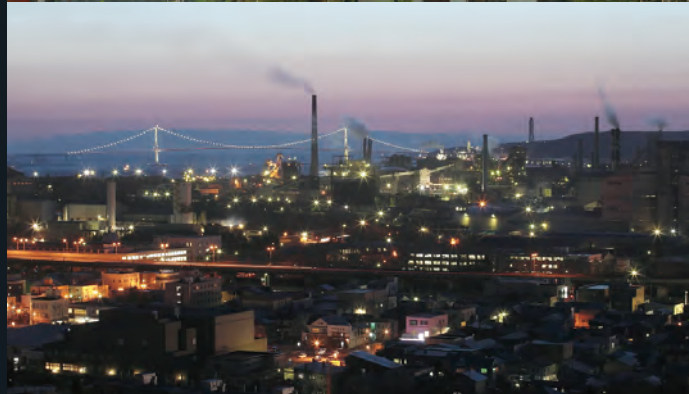
NPO法人 炭鉱の記憶推進事業団 理事長

高野宏康

和田幸司



「炭鉄港」日本遺産認定記念フォーラム クラウスの記憶を明日へつなぐ



日時

2020年2月15日(土)
10:30～12:30

入場
無料

会場

ほろしん温泉「クリスタルホール」
沼田町字幌新377番地



令和元年度文化芸術振興費補助金
(地域文化財総合活用推進事業)

参加申込みの詳細は裏面をご覧ください



クラウス15号蒸気機関車

開拓使が設置された1869年からわずか150年という短い期間で、5万人弱だった人口が100倍に増え、豊かな社会を達成した北海道。その歴史をひも解くと、空知(石炭)、室蘭(鉄鋼)、小樽(港湾)とそれらをつなぐ鉄道を舞台に繰り広げられた、産業革命の物語(ストーリー)が見えてきます。この『本邦国策を北海道に観よ!~北の産業革命「炭鉄港」~』のストーリーは、令和元年5月20日に、日本遺産に認定されました。

日本遺産は認定されて終わりではなく、ストーリーを発信し、活用することが求められています。「炭鉄港」の特徴の一つは、ストーリーを彩る資源の多くが残されていることです。石炭運搬に活躍した「クラウド15号蒸気機関車」もその一つです。構成文化財、食や生活の文化、「炭鉄港」の人々の記憶。こうした有形無形の宝物を連携させて発信・活用し、まちづくりや観光振興などにどのようにつなげていくか。

そのためには「炭鉄港」のストーリーをさらに掘り起こし、もっと多様な魅力へと発展させていくとともに、子どもたちに「炭鉄港」のストーリーや沼田町の歴史を伝えていくことも大切です。自分が育ったまちへの愛着、この地域が日本の成長を支えていたという誇りは、いつかまちを離れても故郷を想う原動力になるはずです。

沼田町の記憶を明日へつなぐ活動の一つとして「炭鉄港」のフォーラムを開催いたします。ぜひ、会場に足をお運びください。

開催概要

日時 2020年2月15日(土) 10:30~12:30

会場 ほろしん温泉「クリスタルホール」 **入場** 無料

お申し込み

参加ご希望の方は下に必要事項をご記入の上、FAXかメールでお申し込みください。

FAXの場合 下記に必要事項をご記入のうえ、お送りください。

沼田町会場

お名前:	参加人数:	名
お電話番号(固定・携帯どちらでも可):		

FAX送信先 **011-232-4918**(株式会社ノーザンクロス)

メールの場合 お名前、参加人数、お電話番号、「沼田町」会場への参加希望を明記して下記のアドレスへお送りください。

ida@northerncross.co.jp

*お申込みいただかなくてもご入場いただけますが、定員になった場合はご参加いただけない場合もあります